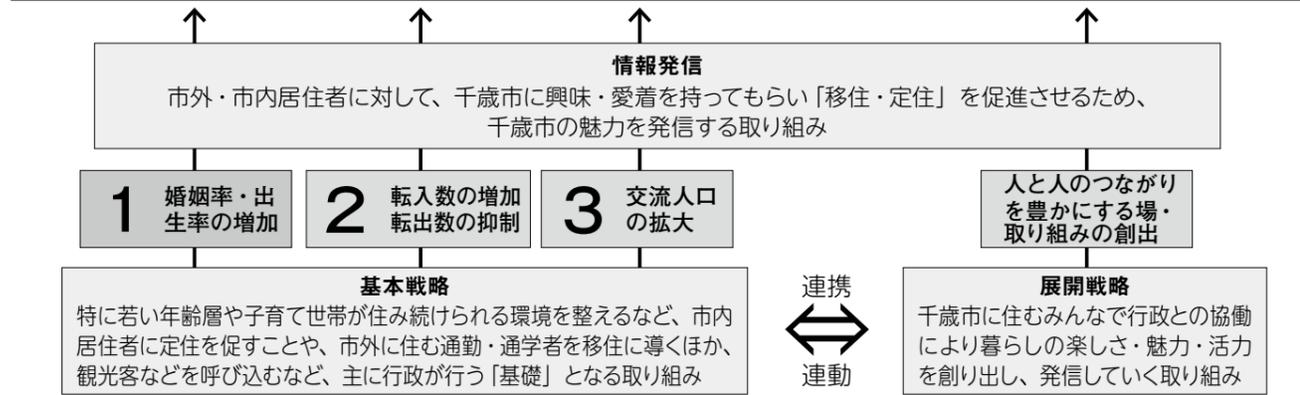


総合戦略編

・全国的な少子高齢化に伴う人口減少が続く中、千歳市は、北海道内で人口が増加している数少ないまちです。
 ・このまちの勢いをさらに飛躍させ、活力が循環するまちづくりを進めるため、総合戦略の目標としては、平成 27 年度当初人口約 9 万 4 800 人から、平成 32 年度に定住人口 9 万 7 000 人の達成を目指します。

総合戦略の目標「みんなで97,000プロジェクト」 (数値目標：平成 27 年 4 月の人口約 9 万 4 800 人 ⇒ 平成 32 年度における定住人口 9 万 7 000 人の達成)



基本戦略

1 婚姻率・出生率の増加
 出生数を増加させるため、独身者などを対象に結婚相手に巡り合う機会をつくり、婚姻率や出生率を向上させることや、安心して子どもを産み育てることができる環境づくりなどの取り組みを実施

目標

- 1000 人あたり婚姻届出の率 6.5 以上 (平成 32 年度まで)
- 合計特殊出生率 1.6 以上 (平成 32 年度目標値)

施策

- ① 結婚活動応援事業
- ② 千歳市不妊治療費助成事業
- ③ 父子健康手帳発行事業
- ④ いいお産の日 in ちとせなどの子育てイベントの充実
- ⑤ 地域子育て支援センターの拡大
- ⑥ 企業連携がちなゼミの導入
- ⑦ 放課後の「子どもの居場所づくり」の推進
- ⑧ 子育て特典カード事業の推進

2 転入数の増加／転出数の抑制
 企業誘致や創業支援などの雇用創出や交通ネットワークの充実、医療・教育・住環境などを向上させる取り組みなどを実施

目標

- 転入超過数 150 人以上 (平成 27 年度～平成 32 年度までの平均値)

施策

- ① 創業支援事業
- ② 移住相談窓口の充実
- ③ 自衛隊体制強化の要望活動
- ④ 新規就農者特別支援事業
- ⑤ 企業誘致の推進
- ⑥ 地域企業販路開拓支援事業
- ⑦ 住まいのコンシェルジュ (住宅総合相談員) の配置
- ⑧ ICT 教育の充実
- ⑨ 小中学校児童生徒の学力の向上
- ⑩ 交通ネットワークの充実
- ⑪ 千歳市休日夜間急病センターの新設
- ⑫ 職場見学バスツアー
- ⑬ 雇用情報センター機能強化事業

3 交流人口の拡大
 千歳市の魅力を肌で感じ、口コミで広げてもらうことや、観光産業などの活性化により雇用を創出し、定住人口の増加を図るため、新千歳空港などの観光資源を最大限に活用し、市内に誘客を図る取り組みなどを実施

目標

- 観光入込客延べ数 3200 万人以上 (平成 27 年度～平成 32 年度までの市内の観光地点)

施策

- ① 市外に居住する方々との農村交流
- ② 道央圏への誘客
- ③ 支笏湖産ヒメマスのブランド化
- ④ スポーツ宿泊・大会の誘致などの推進
- ⑤ 新千歳空港利用者の市内への回遊促進
- ⑥ 観光施設の機能充実
- ⑦ 中心商店街空き店舗利用促進事業

展開戦略

人と人がつながりを豊かにする場・取り組みの創出
 若い市民の定住、市外から通勤する就業者、通学する学生の移住を促進させるため、多様な人と人のつながりを豊かにし、魅力を高める取り組みを実施

目標

- 「千歳市に住みたい／住みたい」と回答する割合 7 割以上 (平成 32 年度までの市民および市内の就業者)

施策

- ① 若い世代が参画する「(仮称) チャレンジ・スペース」創出事業
- ② 千歳市の暮らしの楽しさ・魅力を高め、伝えるプログラム創出事業

情報発信

移住・定住を促進するため、「千歳を知ってもらう」、「千歳に来て魅力を感じてもらう」、「移住を決める要因となる機会を提供する」といった段階的な取り組みを実施

目標

- 市ホームページアクセス延べ数 3 万件 (平成 27 年度～平成 32 年度までの市移住情報のページ)
- 観光入込客延べ数 3200 万人 (平成 27 年度～平成 32 年度までの市内観光地点)
- 移住相談延べ数 600 件 (平成 27 年度～平成 32 年度までの延べ数)

施策

- ① 移住情報の充実
- ② 泉沢向陽台住宅地の販売促進活動
- ③ 求人情報などの提供
- ④ 観光 PR 事業
- ⑤ 東京千歳会交流会の開催
- ⑥ 子育て情報の発信



日本の人口は、2008 年をピークに人口減少が始まっており、全道で一番若いまちと言われている千歳市も例外ではありません。
 今月のズームアップは、平成 28 年 3 月に策定した、市民の皆さんとともにまちの勢いを飛躍させ、活力が循環するまちづくりを目指す「千歳市人口ビジョン・総合戦略～みんなで97,000プロジェクト～」の概要についてお知らせします。

千歳市人口ビジョン・総合戦略 ～みんなで97,000プロジェクト～ (概要) (平成 27 年度～32 年度)

人口ビジョン編

◇人口推計
 国立社会保障・人口問題研究所によると、平成 25 年 3 月に発表した千歳市の人口は、平成 32 年に約 9 万 4 700 人でピークを迎え、平成 52 年には約 8 万 8 700 人まで減少すると推計されている

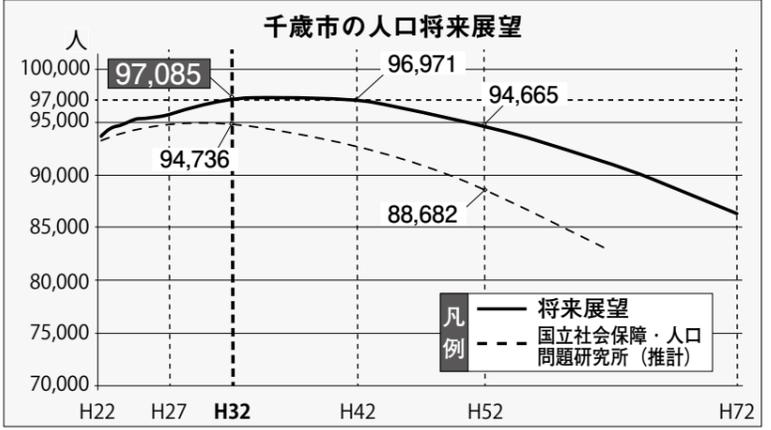
人口に関する課題とその解決の方向性

- 課題 1 婚姻率の向上**
 ◎千歳市の婚姻率は、近年、減少傾向
 ◎「適した相手にまだ巡り合わない」ことが、独身でいる最も大きな理由
 →特に、若い年齢層が希望する相手と巡り合える機会を増やし、初婚年齢を下げる施策が有効
- 課題 2 出生率の向上**
 ◎千歳市の合計特殊出生率は、近年、横ばいが続いている
 また、晩婚化により 20 歳代の出生率が下がる
 ◎市民は、独身者、既婚者とも 2 人以上の子どもを希望
 →子どもを産み育てやすい環境、暮らしやすい環境をつくって行くことが必要
- 課題 3 転入数の増加と転出数の抑制**
 ◎千歳市は、毎年 5000 人～6000 人が転入・転出する人口移動の活発なまち
 →転入数をさらに増やし、転出数を抑制することにより、人口増加・維持につなげる
 特に若い年齢層を中心に取り組みを行うことが効果的

- 課題 4 産業の振興、雇用促進**
 ◎転入数を増加・転出数を抑制するためには、産業振興を通じた雇用の創出が必要
 →企業誘致や企業の経済活動支援、起業家支援などに取り組むことが有効
 →市内企業にさらなる雇用の創出を働きかけ、市内高等学校にも企業が望む人材育成の情報提供なども有効
- 課題 5 市外からの通勤・通学者などの移住促進**
 ◎市外からの通勤・通学者は、約 1 万 3 600 人
 市内の大学・専門学校生の 90%が市外出身者
 →市外から通勤している就業者や通学している学生に移住を働きかけることが有効
- 課題 6 交流人口の拡大**
 ◎千歳市への観光客入込数は横ばいであるが、新千歳空港の乗降客数は、平成 26 年度過去最高
 →新千歳空港や市内の観光資源を活用して交流人口を増やすことが有効な情報発信になるほか、雇用の創出につながる有効
- 課題 7 自衛隊体制の強化**
 ◎自衛隊隊員数は、市の人口の約 10%、家族を含めると約 25%を占める
 →自衛隊の体制縮小は大きな影響があるため、強化する対策を講じることが必要

◇人口の将来展望
 人口推計や人口に関する課題とその解決の方向性を考慮して、「出生率の向上」や「転入超過数プラスの維持」を目標とし、千歳市の人口の将来展望は「平成 32 年に人口 9 万 7 000 人を達成し、以降も 10 年超にわたり同程度の人口を維持」と設定する

- 出生率の向上**
 ◎主に出産の中心世代である 20 歳～39 歳までの女性人口が減少する見通しのため、出生率向上の取り組みが必要
 →合計特殊出生率を平成 42 年までに 1.8 程度、平成 52 年までに 2.07 程度に向上させる
- 転入超過数プラスを維持**
 ◎千歳市は、転入・転出の人口移動が活発で、市外からの通勤・通学者が多いため、転入数の増加、転出数の抑制、市内居住が促進される取り組みが必要
 →転入超過数の目標を年平均 150 人とする



この記事のお問い合わせ 企画部主幹付主査 (地方創生・定住促進担当) ☎ (24) 0 5 2 1